

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000163		
法人名	株式会社タフティサポート		
事業所名	すいーと上桂 2階		
所在地	京都市西京区上桂前田町55-4		
自己評価作成日	令和3年3月30日	評価結果市町村受理日	令和3年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2694000163-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町2-1		
訪問調査日	令和3年4月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で家庭的な雰囲気を大切にし、ご入居者ひとりひとりが生き甲斐をもち、いきいきと充実した生活が送れるように、毎日の活動・毎月の行事活動の実施、ボランティアの皆様による楽しみの時間の提供を行っています。また、日常生活でその人の残存能力を活かした役割と日課を持っていただき、その人らしい存在感と自己実現に向けて取り組んでいます。食事をすることの喜びを大切に、温かい料理と香りを味わえる日々の暮らし、特別な食事パーティーを定期的に開催しています。おやつレクリエーションも毎月実施しており利用者様にはご好評頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成28年4月に開所した、1階に小規模多機能事業所を併設する2ユニットのグループホームです。幹線道路に面し、近隣に住宅地や飲食店の多い恵まれた立地環境です。この数年で築いてきた地域との関わりも、コロナ禍の影響により希薄になっている中、回覧板での情報のやり取りは継続し、玄関前の掲示板には事業所の広報誌を掲示するなど、地域に向けた情報発信は継続しています。地域行事や外出機会がない中、事業所内でできることへの取り組みに力を入れ、食事委員会と調理員が月に一度の食事イベントを開催し、手作りおやつとして「プリンパフェ」「ケーキ」「ドーナツ」など手の込んだおやつ作りを行い、現在の環境下でできることを実施しています。法人全体の取り組みとして、ITを活用した研修制度も充実しており、職員のITリテラシーに差はあるものの、効率的に学習できる環境でもあります。管理者は現場の職員と話すことを大切にしており、運営に関する意見や要望も直接聴き取るようにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念に基づいて実践している。全体会議やフロアミーティングで話し合い意見交換などをし情報共有に努めている。	法人理念・事業所理念を玄関先に掲示し、来訪者・職員へ周知しています。事業所理念は、年度毎に職員との話し合いを経て、新しく作られています。法人理念は朝礼時に唱和し、理念に沿ったサービスが提供できるよう努めています。	法人理念についての周知は十分にできていると思われませんが、事業所理念の周知が不十分と思われます。事業所理念の実践が具体的なケアの提供になるため、この落とし込みや周知の方法に工夫が必要です。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板に目を通し事業所前の掲示板で広報誌を掲示し、地域の方々に事業所を知って頂く取り組みを行っている。	コロナ禍の中、自治会活動も中止しており、地域との関わりも希薄になっています。バス停が玄関前にあることから、掲示板に広報誌を掲示したり、近隣へ広報誌をポスティングしたりするなどの取り組みを行っています。現在、広報誌を回覧板で回していただく検討もしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行し認知症の方への理解を発信している。また事業所の取り組みは運営推進会議でも情報共有している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの感染予防で、運営推進会議の中止が続いているが、事業所内で開催した議事録は関係者やご家族様へ郵送している。	コロナ感染予防の観点から、2ヶ月に一度の書面開催としています。議事録は、地域包括・社協・家族・協力医・訪問歯科・訪問マッサージ等へ送付しています。	関係者への議事録配布はあるものの、事前の意見照会などの取り組みまでには至っていません。議事録送付時に、次回の議案と共に、事前に意見等を照会する取り組みをされてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援専門員が地域ケア会議などに参加しているが、コロナ禍で参加が出来ない状況。	運営推進会議議事録は、管理者が窓口へ持参し、顔の見える関係を築いています。事業者連絡会や地域ケア会議も中止となっている中、オンライン会議などの取り組みも始まっていますが、現在は参加できていない状況です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針や内部研修を実施し、身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。また研修以外にも個別の学びで得た知識をミーティングなどで共有している。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、年間研修計画に基づく研修を2回実施しています。また、「身体拘束・虐待防止委員会」を設置し、年4回の委員会活動が実施され、その内容については、全体会議・フロア会議で全職員に落とし込みを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修で認知症研修やリスクマネジメント研修で虐待防止に関する研修を実施し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を実施している。親族がおられず後見人の方が引受人になっている利用者様もおられる為、必要に応じて連絡を取り情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書や契約書を使用し説明を行っている。改定の内容は文書で送付し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、ご家族様や関係者の方からのご意見を運営に反映させられるように心がけている。	ご意見箱は設置しているものの、投函されるまでには至っていません。法人として、年に一度、家族アンケートを実施しており、満足度の計測や改善点の意見収集を行っています。	アンケートに書かれた要望や意見は、無記名であることから、フィードバックは行われていません。個人情報に配慮したうえで、戴いた意見に対する回答を公表し、他の家族に対しても、自由に意見を言ってもらいやすい環境を作られてはいいかでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員面談を実施している。また職員満足度調査を実施し、職員の意見を運営に取り入れている。	職員は年度当初に、理念に則した目標を3つ掲げ、その進捗の確認や意見の聴取は半期毎の面談を通じて行っています。また年一回、職員満足度調査を実施し、職員の想いを聴き取るようにしています。管理者は現場で職員と話をすることを大切にしており、日頃から職員意見を聴き取るようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定からの判断の他、キャリアパスの観点から業務評価管理シートを活用し、個々の努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間スケジュールをもとに、毎月内部研修へ参加してもらっている。職員一人一人の力量にあった研修に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会や地域ケア会議など、新型コロナ感染防止の為参加が出来ていない状況。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを実施し、家族から過去の生活歴を反映し生活に取り入れるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面会でご家族や利用者様の意向の確認に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、利用者様の意向を確認し支援に取り入れて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のADLの範囲で洗濯物をたたんで頂いたり食器を拭いて頂いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時期に応じて短時間の面会やご家族とのコミュニケーションを密にとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの感染防止対策により面会制限を実施している。	コロナ禍前は、教会や馴染みの喫茶店に出掛ける方もいましたが、現在はコロナ感染予防対策により、馴染みの関係との継続が難しい状況です。入居前からの趣味であった折り紙を継続したり、生活の中での役割を持ったりすることで、現在の環境下でできることを行っています。オンライン面会の案内もしていますが、現在のところ希望される家族は数人とのことです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもらないよう、レクリエーションや活動・作業を通して目的を持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより契約終了した方についても生活支援に係る相談や問い合わせに応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から利用者様の思いをくみ取り、会話の中から意向の確認を行っている。	居室担当者を決め、入居者との関わりの中で得られた情報は、介護日誌と申し送りノートで共有されています。得られた情報の重要性に気付く職員とそうでない職員のレベル差があり、情報を一元化し、ケアに活かせるまでには至っていません。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や他サービスの方からの情報により今までの暮らしについて把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子観察や他スタッフとの情報交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティングなどの話し合いで入居者様の様子について話し合い、ケアプラン反映に努めている。	短期目標の期間(6ヶ月)に合わせ、介護計画の見直しを行っています。モニタリングは、計画作成担当者により毎月実施されており、状態変化があった際は、担当者会議を実施して、適宜見直しを行っています。	往診時の医師の意見は、常駐する看護師が記録し、計画の見直しの参考にしています。見直しの際は、医師や薬剤師などに改めて意見照会を行い、担当者会議の議事録に記載するなどの取り組みが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロアミーティングの話し合いにて情報共有や改善点の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関以外の医療機関で、ご家族様が希望される際には職員が代行で付き添い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議に地域包括支援センター職員の方に参加して頂くことで地域の情報や運営に関する助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療を実施し、適宜容態を連絡することで健康管理の支援を行っている。	かかりつけ医を継続し、家族協力での受診をされている方も数名おられます。その際は、医療情報をFAXで貰えるようにしています。往診は月2回、協力医の契約者のみ行われています。毎週訪問歯科があり、歯科衛生士による口腔ケアの指導もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼や申し送りノートで入居者様の状態の伝達、特変時は速やかに報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に協力して頂き必要な治療を行えるように入院先などを決定している。入院中の状態については直接訪問させて頂くことで健康状態を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を書類により説明を行っている。終末期に向けたケアでは、本人、家族、協力医療機関、施設職員で協議のもと対応を決定している。	「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りに関する指針」を作成し、入居時に説明の上、「重度化した場合の介護に関する意向確認書及び同意書」を取っています。この意向確認書は、入居時だけでなく、看取り期に入られる前には、再度確認を取り、書面に残しています。看取り研修も年一回実施され、看護師からの指導や、看取り経験者からの体験談を聞くなど、看取りに向けた取り組みが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時におけるマニュアルを整備している。対応の仕方についての研修を実施している。緊急時には連絡網を用いた連絡が行われるように定められている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアルを整備している。年に2回の消火避難訓練や内部研修を実施している。	コロナ感染予防対策として、今年度は消防署の協力は得ず、事業所独自で夜間想定火災訓練を行っています。緊急連絡網は整備されていますが、その実効性を確認するまでには至っていません。河川氾濫による水害想定ができる場所であることから、この訓練にも期待するところです。災害備蓄品として、飲料水や缶詰パン・救急セット・懐中電灯などを備えています。入居者3日分には至っていません。法人としての整備を行っているところです。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を尊重し丁寧な言葉かけを実践している。	プライバシー保護に関する研修は年一回実施されており、尊厳の重視や恥ずかしい思いをさせないケアに努めています。特にトイレ誘導時の声掛けや、居室でのおむつ交換時などは、配慮ある支援になるよう心掛けています。不適切な声掛けにならないよう、フロアリーダーを中心にOJTが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のADLを把握しご自身で自己決定して頂けるような声かけの工夫を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体の生活をして頂くよう、利用者様を尊重しニーズをくみ取り支援に生かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は整髪をし日々の身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やおやつレクリエーションを行う際に、利用者様で出来る方にはお手伝いをして頂いている。	昼夕食は専門の調理員が1階の厨房で調理したものが各フロアに運ばれます。各フロアで炊飯は行われ、盛り付けや片付けなどは入居者と一緒に行っています。朝食はユニット毎に調理し、パン食も取り入れています。月に一度、食事イベントとして、食事委員会と調理員が相談し、様々なイベント食が提供されています。おやつ作りにも力を入れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はその都度記録に残し看護師、介護士で情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全利用者に口腔ケアを行っている。ご自身で出来る方にはやっておくよう声掛けを行っている。一週間に1度訪問歯科を受けられている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLを把握し利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し支援を行っている。	日中はおむつを使用せず、水分摂取量や排泄パターンを把握し、声掛けによりトイレ誘導を行っています。夜間のみおむつ使用の方が数名おられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘の原因を理解し、個々の利用者様に応じた下剤調整や食べ物の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴支援を実施している。入浴剤を使用したり、菖蒲湯など季節を感じて頂ける取り組みを行っている。	週2回の入浴を基本とし、曜日は決めてあるものの、その日の体調や様子を見ながら臨機応変に日にちの変更も行っていきます。季節毎に菖蒲湯やゆず湯を楽しむ機会もあります。座位が取れない方には、二人介助での入浴や、足浴とシャワー浴を組み合わせての対応もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化や状況に応じて休息して頂いている。利用者一人ひとりの睡眠時間を把握し、不眠・浅眠傾向の方には医師と連携し薬剤調整をしたり日常生活を見直すなどし支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬剤情報は必ず周知副作用や用法用量の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的にレクリエーションの時間を設け、行事委員と連携を図りながら、生活の楽しみを支援している。グループホームでも作品作りをしたりおやつレクを開催している。洗濯物を畳んで頂いたり食器洗いを手伝って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防の為、外出は自粛している為、外出支援は実施出来ていない。室内で気分転換が図れる支援を行っている。	コロナ禍の影響による外出自粛により、現在は建物外に出ることはほとんどありません。またユニット間での交流も制限しているため、各ユニットでのレクリエーションなどを充実させることで気分転換を図っています。	外出制限があるとはいえ、やり方を工夫することで敷地内での日光浴や外気浴程度は実施できると思われます。また外出先で外に出ないようにドライブ外出などにも取り組まれてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理が出来る利用者様がおられないが、希望される方がいれば自己にて管理が出来る範囲で支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様・ご家族様で電話を希望される方がいれば利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアには季節感を感じて頂ける飾り付けや設えをし過ごししやすい居心地のいい生活空間を提供している。	レクリエーション委員会が中心となり、入居者と一緒に季節感のある作品を作り、リビングに飾り付けています。汚物処理を丁寧にすることや、定期的に換気を行うことで、臭気対策にもなっています。ソファを設置することで、思い思いの場所で過ごせるよう工夫もされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で隣席に座って頂いたり、ソファでくつろいで頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用されていた家具や写真など利用様の馴染みのものを使用して頂いている。	現在のコロナ禍でも家族の希望があれば入居前家庭訪問を実施し、その際、馴染みの家具や使い慣れた物を持ち込んでもらうよう家族に話をしています。仏壇やガラステーブルを持ち込まれている方もおられ、安全に配慮しながら居室に設置し、居心地の良い居室づくりを進めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活して頂けるよう福祉用具を使用したり、生活環境を見直すなどし支援をしている。歩行が不安定な利用者様にはシルバーカーを使用して頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000163		
法人名	株式会社タフティサポート		
事業所名	すいーと上桂 3階		
所在地	京都市西京区上桂前田町55-4		
自己評価作成日	令和3年3月30日	評価結果市町村受理日	令和3年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2694000163-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年4月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で家庭的な雰囲気を大切にし、ご入居者ひとりひとりが生き甲斐をもち、いきいきと充実した生活が送れるように、毎日の活動・毎月の行事活動の実施、ボランティアの皆様による楽しみの時間の提供を行っています。また、日常生活でその人の残存能力を活かした役割と日課を持っていたり、その人らしい存在感と自己実現に向けて取り組んでいます。食事をすることの喜びを大切に、温かい料理と香りを味わえる日々の暮らし、特別な食事パーティーを定期的に開催しています。おやつレクリエーションも毎月実施しており利用者様にはご好評頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階に同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念に基づいて実践している。全体会議やフロアミーティングで話し合い意見交換などをし情報共有に努めている。	2階に同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板に目を通し事業所前の掲示板で広報誌を掲示し、地域の方々に事業所を知って頂く取り組みを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行し認知症の方への理解を発信している。また事業所の取り組みは運営推進会議でも情報共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの感染予防で、運営推進会議の中止が続いているが、事業所内で開催した議事録は関係者やご家族様へ郵送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護支援専門員が地域ケア会議などに参加しているが、コロナ禍で参加が出来ていない状況。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針や内部研修を実施し、身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。また研修以外にも個別の学びで得た知識をミーティングなどで共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で認知症研修やリスクマネジメント研修で虐待防止に関する研修を実施し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を実施している。親族がおられず後見人の方が引受人になっている利用者様もおられる為、必要に応じて連絡を取り情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書や契約書を使用し説明を行っている。改定の内容は文書で送付し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、ご家族様や関係者の方からのご意見を運営に反映させられるように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員面談を実施している。また職員満足度調査を実施し、職員の意見を運営に取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定からの判断の他、キャリアパスの観点から業務評価管理シートを活用し、個々の努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間スケジュールをもとに、毎月内部研修へ参加してもらっている。職員一人一人の力量にあった研修に参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会や地域ケア会議など、新型コロナ感染防止の為参加が出来ていない状況。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでご本人のニーズや意向の確認を行いケアプランに反映させケアに生かしている。また日常の様子に変化があればカンファレンスを開催し統一したケアが出来るよう情報共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のアセスメントでご家族様にも意向確認をし、利用者様にどのように過ごして頂くか確認をする。また情報共有の為の電話連絡もこまめに実施する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に面談・アセスメントを実施し、その方に必要なサービスや本人様・家族様に要望を確認するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のADLやニーズを把握し、生活の中でご本人の思いをくみ取った支援を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常の様子や変化はこまめに家族様へ連絡している。現在面会制限を行っている為、直接の面会は出来ないが、WEB面会を取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在感染予防の為外出制限をしているが、以前は教会への参加や買い物支援の付き添いなど実施していた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で良い関係性が築けるよう、利用者様の性格などを見て職員が間を取り持つよう働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退去されたあとも、必要に応じて支援に入ることもあるが、退去後に支援を必要とされる方は多くない状況。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い本人様の希望をケアプランに取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを使用し情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼や申し送りノートで職員間の情報共有を行い現状把握に努めている。また個人記録でも日常の変化を記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングの実施。利用者様の話を傾聴しケアプランに反映する。家族様には電話連絡を行い、意向確認を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成しフロアミーティングで話し合い情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力機関以外の医療機関への受診も、ご家族の負担軽減の為職員が付き添いを代行することがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議に地域包括支援センター職員の方に参加して頂くことで地域の情報や運営に関する助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療を実施し、適宜容態を連絡することで健康管理の支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼や申し送りノートで入居者様の状態の伝達、特変時は速やかに報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に協力して頂き必要な治療を行えるように入院先などを決定している。入院中の状態については直接訪問させて頂くことで健康状態を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を書類により説明を行っている。終末期に向けたケアでは、本人、家族、協力医療機関、施設職員で協議のもと対応を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時におけるマニュアルを整備している。対応の仕方についての研修を実施している。緊急時には連絡網を用いた連絡が行われるように定められている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアルを整備している。年に2回の消火避難訓練や内部研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を尊重し丁寧な言葉かけを実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のADLを把握しご自身で自己決定して頂けるような声かけの工夫を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体の生活をして頂くよう、利用者様を尊重しニーズをくみ取り支援に生かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は整髪をし日々の身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やおやつレクリエーションを行う際に、利用者様で出来る方にはお手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はその都度記録に残し看護師、介護士で情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全利用者に口腔ケアを行っている。ご自身で出来る方にはやって頂くよう声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLを把握し利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘の原因を理解し、個々の利用者様に応じた下剤調整や食べ物の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、菖蒲湯など季節を感じて頂ける取り組みを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠時間を把握し、不眠・浅眠傾向の方には医師と連携し薬剤調整をしたり日常生活を見直すなどし支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬剤情報は必ず周知し副作用や用法用量の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的にレクリエーションの時間を設け、行事委員と連携を図りながら、生活の楽しみを支援している。グループホームでも作品作りをしたりおやつレクを開催している。洗濯物を畳んで頂いたり食器洗いを手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防の為、外出は自粛している為、外出支援は実施出来ていない。室内で気分転換が図れる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理が出来る利用者様がおられないが、希望される方がいれば自己にて管理が出来る範囲で支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様・ご家族様で電話を希望される方がいれば利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアには季節感を感じて頂ける飾り付けや設えをし過ごしやすい居心地のいい生活空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で隣席に座って頂いたり、ソファでくつろいで頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用されていた家具や写真など利用様の馴染みのものを使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活して頂けるよう福祉用具を使用したり、生活環境を見直すなどし支援をしている。		